

事例 1

英語 I における「授業を英語で行う」工夫

1 課題設定の理由

新学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実すると共に、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行う」ことが明記された。「授業を英語で行う」ためには、現在の授業を見直し、指導法を改善しなければならない。現在日本語で読解をしているが、それをそのまま英語で行っても生徒は理解できず、教師だけが英語で話しているという状況が生まれてしまうのではないかと考える。新学習指導要領に示されている「生徒が英語に触れる機会を充実」させることと、「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」ことを重要な要素と捉え、「いかに教師が流ちょうな英語で授業をするか」でなく、「生徒が英語に触れる機会をいかに増やすか、英語を英語のまま理解したり、英語で自己表現したりするコミュニケーションの場面をどのように設定するか」ということに焦点をあて、英語 I の授業において「授業を英語で行う」ための研究を行うことにした。

2 生徒の実態及び仮説の設定

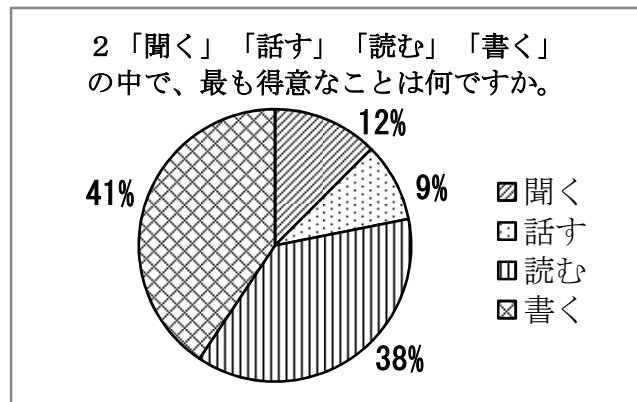
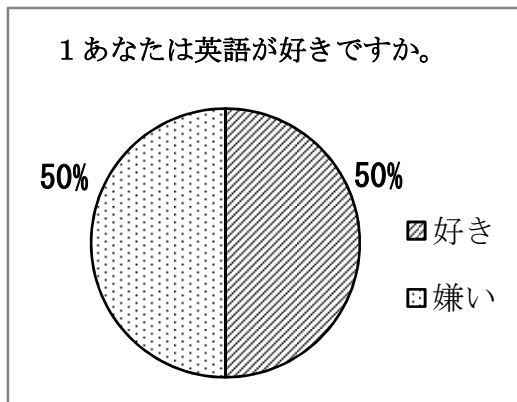
(1) 事前アンケート

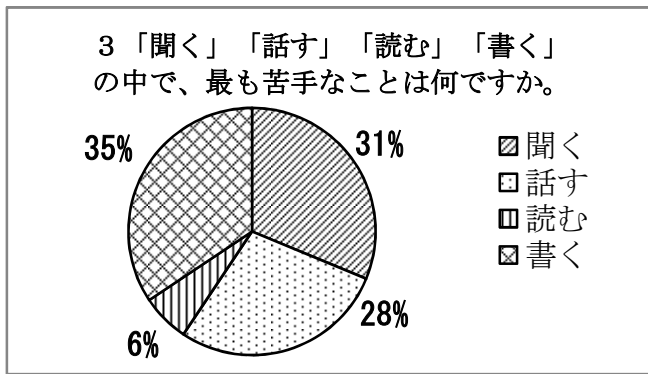
5月末に英語学習に対する意識を調査するために、以下のようなアンケートを実施した。今回のアンケートの調査対象とした生徒は、第1学年習熟度別クラスの32名である。英語 I は3単位の履修となる。

<実施したアンケート>

- 1 あなたは英語が好きですか。
- 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なことは何ですか。
- 3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なことは何ですか。
- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。

<アンケート結果>





<以下は主なものを抜粋>

- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・相手の伝えたいことをきちんと理解できるようになりたい。
 - ・映画やラジオで内容を理解できるようになりたい。
 - ・英語版のアニメや洋楽を理解できるようになりたい。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・外国人に通じる発音ができるようになりたい。
 - ・話すときに、考えたり、つかえたりしないようにしたい。
 - ・日常生活に必要な最低限のことを話せるようになりたい。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・辞書を引かずに読めるようになりたい。
 - ・教科書を上手に読めるようになりたい。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・自分の考えていることを伝えられるような文を書けるようになりたい。
 - ・意味が通じるようにきちんとした英文が書けるようになりたい。
 - ・手紙やメールなどを書けるようになりたい。

アンケートの集計結果から、生徒のちょうど半数が英語を「好き」と回答し、「書くこと」に次いで「読むこと」を得意とする生徒が多いことが分かった。これは、これまでの訳読を中心とした授業で、「読む」という活動が多く、さらに読んだことに対して何か一言書くという作業を毎時間取り入れてきたためであると考えられる。一方、苦手とすることのトップも「書くこと」が挙がっており、次いで「聞くこと」「話すこと」となっていた。「書くこと」が得意と苦手の双方のトップに挙がっているのは、活動として「書くこと」は行っているものの、ただ何となく書いているという生徒が多く、常に受け身の姿勢で「書かされているから書く」という意識の生徒が多いからではないかと考える。「聞くこと」「話すこと」に対する苦手意識が多いのは、「自分の言いたいことを伝え、相手の伝えたいことをきちんと理解する」という生徒の願いを叶えるような活動の機会が授業中に少なかったことがあるのではないかとと思われる。

(2) 事前アンケートに基づく仮説

事前アンケートを基に、以下のような仮説を立てた。

仮説1 教師の英語の発話量を増やすことで、英語に触れる機会が増え、「聞くこと」への苦手意識を減らすことができる。

仮説2 教師との英語でのインタラクションを増やしたり、ペアワークやグループワークを用いて英語で表現する場面を増やしたりすることで、「話すこと」への抵抗を減らすことができる。

仮説3 コミュニケーション活動を前提とした「書く」活動を段階的に取り入れることで、「書くこと」への意欲を高めることができる。

3 本研究の流れ

本研究は、以下のA、B、Cの3つの活動を、段階Ⅰ（6、7月）、段階Ⅱ（9、10月）、段階Ⅲ（11月）の三つに分け、段階的に実施した。

活動A：導入に関する活動

活動B：本文の内容理解に関する活動

活動C：本文に基づく表現に関する活動

	活動A		活動B	活動C	
段階Ⅰ (6、7月)	単語と意味のマッピング 事例①	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭だけの oral introduction 事例② ・PCを用いた oral introduction 事例③ 	教師から生徒への英問英答 事例①	key word を用いた要約文 事例①	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する英作文 事例② ・重要表現定着のためのコミュニケーション活動 事例③
段階Ⅱ (9、10月)	単語と説明文のマッピング 事例④	<ul style="list-style-type: none"> イラストを用いた oral introduction 事例⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士での T/F 事例② ・心情把握のための文の抜粋 事例③ 		本課のテーマに関する英作文の発表 事例④
段階Ⅲ (11月)	単語の別の表現での言い換え 事例⑥		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士での Q&A 事例④ ・key sentence の抜粋と理由 事例⑤ ・story reproduction 事例⑥ 		story telling 事例⑤

4 実践内容

(1) 段階Ⅰ（6、7月）

段階Ⅰの到達目標

- 活動Aに関して
- ・新出単語や熟語を、その意味から英語で答えることができる。
 - ・oral introduction を聞いて、本文の概要を推測することができる。
- 活動Bに関して
- ・英問英答によって内容を理解することができる。
- 活動Cに関して
- ・key word をつなげながら、要約文を書くことができる。
 - ・地球温暖化を防ぐために、自分ができることを英語で書き、発表することができる。

使用教科書 POWWOW ENGLISH COURSE I

(ア)活動Aに関する事例① 新出単語・熟語の確認

新出単語や熟語の定着を図るため、ペアになり、互いに問題を出し合いながら、解答数を競い合うという活動を行った。ワークシート(資料1)を配布し、一方の生徒が英単語を言い、もう一方の生徒がその意味を言う、または、その逆で意味から英単語を言うという内容で、90秒間でいくつできるかを競わせた。留意した点は、速さを競うあまり、発音があいまいにならないように、何度も発音練習を実施したことである。また、単調にならないように、ペアを毎回変えたり、制限時間を短くしたりした。

<資料1>

Class [] No [] Name []		
90-second quiz		
1	<input checked="" type="checkbox"/> the Maldives	<input checked="" type="checkbox"/> 名: モルディブ共和国
2	<input checked="" type="checkbox"/> paradise	<input checked="" type="checkbox"/> 名: 楽園, 天国
3	<input checked="" type="checkbox"/> the Indian Ocean	<input checked="" type="checkbox"/> 名: インド洋
4	<input checked="" type="checkbox"/> Mole	<input checked="" type="checkbox"/> 名: マレ
5	<input checked="" type="checkbox"/> capital	<input checked="" type="checkbox"/> 名: 首都
6	<input checked="" type="checkbox"/> surf the Net	<input checked="" type="checkbox"/> ネットサーフィンをする
7	<input checked="" type="checkbox"/> happen to~	<input checked="" type="checkbox"/> 偶然~する
8	<input checked="" type="checkbox"/> according to~	<input checked="" type="checkbox"/> ~によれば, ~によると
9	<input checked="" type="checkbox"/> website	<input checked="" type="checkbox"/> 名: インターネットのウェブサイト
10	<input checked="" type="checkbox"/> be located	<input checked="" type="checkbox"/> 位置する
11	<input checked="" type="checkbox"/> consist of~	<input checked="" type="checkbox"/> ~から成る, ~から構成されている
12	<input checked="" type="checkbox"/> island	<input checked="" type="checkbox"/> 名: 島
13	<input checked="" type="checkbox"/> visitor	<input checked="" type="checkbox"/> 名: 訪問者, 観光客
14	<input checked="" type="checkbox"/> scuba diving	<input checked="" type="checkbox"/> 名: スキューバダイビング
15	<input checked="" type="checkbox"/> ~, and so on	<input checked="" type="checkbox"/> ~など

1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目
10	13		11		

(10分)

(イ)活動Aに関する事例② oral introduction その1

これまで授業の導入は日本語で行っていた。英語で oral introduction を行い、生徒が英語に触れる場面が多くなるようにした。「聞くこと」の必要性をもたせるため、ワークシート(資料2)に、聞きとれた単語を書きとめさせた。生徒をペアにし、お互いに聞きとれた単語を合わせ、教科書の本文の概要を推測させ、日本語で書かせた。本文の内容を確認した後、もう一度同じ oral introduction を行い、正しく聞き取れなかった語や文を各自で確認させた。

<資料2>

Lesson2 THE MALDIVES, THE LAST PARADISE ON EARTH
Class [] No [] Name []

Part3
Before reading
< Let's try listening >

this afternoon, seawall
island, captain,
beautiful view,
almost
one of the flattest countries

メモをもとに本文の概要を覚え、ペアで互いに発表し合う。

モルディブが海の中に
消えてしまうかもしれない話。
(27日の午後
'マレ' 戻るボートの上での話。
潜水艇を見て
モルディブは平和な国のこと)

(ウ)活動Aに関する事例③ oral introduction その2

生徒は oral introduction に慣れてきたが、(イ)の活動では、聞きとれた単語を書きとめることに生徒が集中してしまうという課題があった。コミュニケーションを図るには、まず顔を合わせて、言葉のやりとりをすることが必要不可欠である。そこで、PCとプロジェクタを用い、スクリーンに本文に関する質問を映しながら、英語でやりとりをし、概要を把握させる活動を行った(資料3)。ペアワークとし、教師が質問を投げかけた後、ペアで相談をする時間を取ってから、指名するようにした。やりとりを増やすために、補足質問を多く取り入れた。最後には、地球温暖化のモルディブへの影響のスライドを提示し、地球温暖化の原因や影響について考えさせた。ワークシート(資料4)に、必要事項を生徒に記入させることで、活動の確認をした。

<資料3>

Let's think about global warming!

Why? → Because ...

What has happened around the world? → and so on

<資料4>

Lesson2 THE MALDIVES, THE LAST PARADISE ON EARTH

Class [] No [] Name []




Brainstorming

<About the Maldives>

Q1: What does 'the Maldives' mean in Sanskrit?
 ① 鳥々の花輪 ② 自然の宝庫 ③ 神々の住む国

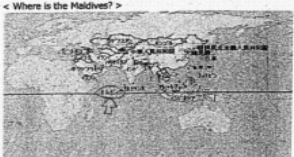
Q2: How many people are there in the Maldives?
 ① about 100,000 ② about 300,000 ③ about 1,000,000

Q3: How large is the Maldives?
 ① 5 times larger than Zuzushima
 ② 1.2 times larger than Tokunoshima
 ③ 0.1 times larger than Saigoshima

Q4: Which is the national flag of the Maldives?
 ①  ②  ③ 

Q5: How many visitors from Japan visited the Maldives last year?
 ① about 5,500 ② about 14,000 ③ about 37,000

<Where is the Maldives?>



<Let's think about global warming!>

★What is the cause of global warming?
 ① 温室効果ガス (CO2) ② 森林破壊
 ③ 工業活動 ④ 自動車排気ガス

★What is happening in the world because of global warming?
 ① 海面上昇 ② 気候変動
 ③ 自然災害 ④ 生態系の破壊

(エ)活動Bに関する事例① 英問英答による内容理解

これまで、日本語で質問しながら内容を理解させていた。これを英語で実施することにしたが、英問英答は生徒にとっては難易度が高い活動なので、まずは、ペアワークで行った。教科書を開かせ、本文に沿って英語で内容を理解させるための質問をし、答えを本文中から抜き出させるようにした。教師の質問後、必ずペアで相談する時間を設けた。質問が終了したら、ワークシート(資料5)を配布し、英問英答の内容を書くことで確認させた。留意した点は、最後にワークシートにまとめることを生徒に伝え、まず本文から答えを見つけ出し、口頭で答えることに集中させるようにしたことである。

<資料5>

Lesson2 THE MALDIVES, THE LAST PARADISE ON EARTH

Part1

Comprehension

< Q&A >

Q1: What city is the capital of the Maldives?
 It is Male

Q2: What is his plan?
 His plan is to spend a week on the Maldives

Q3: How did he know about the Maldives?
 He know about it according to the website

Q4: Where is the Maldives located?
 It is located to the south of India.

Q5: How many islands does the Maldives consist of?
 It consists of about 1,200 islands.

Q6: What do visitors from around the world enjoy in the Maldives?
 They enjoy scuba diving, fishing, and so on.

Q7: What is the Maldives called?
 It is called last paradise on earth.

(オ)活動Cに関する事例① 要約文

英語による表現力を身に付けさせるための活動として、英問英答によって本文の内容を理解させてから、key word をつなげて要約文を書く活動を行った。何度も音読をさせたり、リスニングによる穴埋めをさせたりして、本文を十分にインプットさせてから実施した。ワークシート(資料6)に、いくつかkey word を示しておき、それらをヒントにそのパートの要約文を書かせた。生徒の「書く」意欲を損ねないように、本文をそのまま再生する必要はないこと、簡単な英文で書いてよいことを事前に指示した。

<資料6>

After reading

< Story Reproduction >

Key word をつなげて part1の要約文を作ろう。

- over the Indian Ocean
- in one hour
- Male
- the Maldives
- My plan
- surf the Net
- to the south of India
- 1,200 islands
- scuba diving, fishing, and so on
- the last paradise on earth

① The Maldives consists of about 1,200 islands and is located to the south of India, whose capital is Male.

② People from all over the world come here to enjoy scuba diving, fishing, and so on.

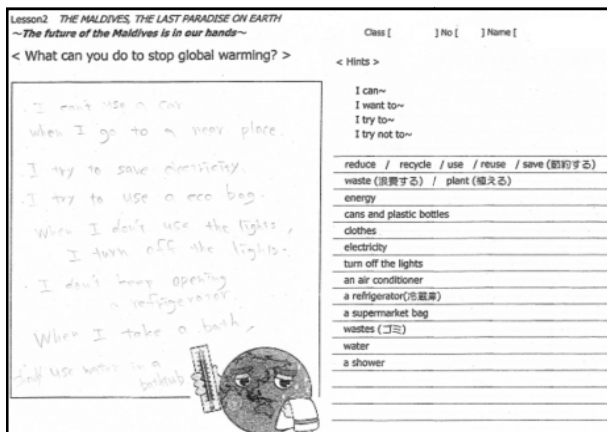
③ The Maldives is called the last paradise on earth because it is surrounded by beautiful nature.

good job!

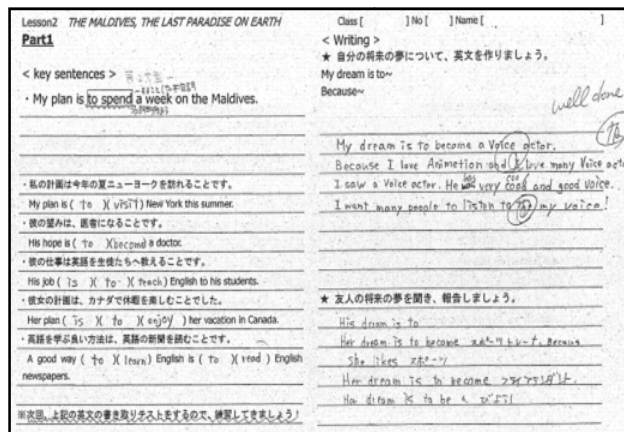
(カ)活動Cに関する事例② 意見文

このレッスンでは、モルディブという国を通して、地球温暖化について学んだ。そこで、単元のまとめとして、このレッスンを通して作者は何を伝えたかったのか、地球温暖化を防ぐために自分たちができることは何か、などについて考えさせ、意見文を書かせた。生徒の現状をかんがみると、段階的な指導が必要であると考えたので、日本のCO₂排出量の部門別の推移、家庭部門の用途別内訳のグラフを資料として配布した。さらに、ワークシート(資料7)を配布し、ヒントとなる表現や語句を事前に提示した。ペアワークとし、表現などは相談させながら書かせた。最後に二つのペアでグループを作らせ、お互いに発表させた。

<資料7>



<資料8>



(キ)活動Cに関する事例③ 文法事項定着のための活動

本レッスンのパート1で扱う文法事項は不定詞の名詞的用法である。「文法はコミュニケーションを支えるものである」と新学習指導要領に明記されていることもあり、不定詞を用いた文章を書かせることでコミュニケーション活動へとつなげる工夫をした。まずはワークシート（資料8）を配布し、不定詞の練習問題に取り組み理解を図った。さらに、自分の将来の夢について書かせながら、名詞的用法に慣れさせた。その後、書いたことをペアワークでお互いに発表させ、その際、相手が言った内容を書きとめさせた。次は二つのペアでグループを作り、書きとめた英語をもとに、自分のペアの夢を別のペアに伝えるという活動を行った。

(ク)段階Iの研究内容の考察

生徒が苦手とする「聞く」「書く」活動を増やすことに留意しながら、導入・展開・まとめの各段階で様々な活動を実施した。また、これまであまり授業に取り入れていなかったペアワークやグループワークを多く取り入れた。

活動Aの新出単語や熟語の定着を図るための活動では、制限時間を設定したり、出題の順番を変えたりするなどの変化をもたせたことで、生徒はゲーム感覚で楽しみながら活動していた。この活動を実施するようになってから、大きな声で教科書の音読に取り組むようになった。oral introductionは二種類実施した。聞きとれた単語から概要を推測する活動は難易度が高く、理解度には個人差が大きかった。そこで、生徒の興味・関心を高めるための手段として、視覚教材を用いてのoral introductionを実施した。題材への関心が高まり、内容への理解度も高くなり、視覚に訴えることの効果の大きさを再認識した。

活動Bに関して英問英答を行ったが、順を追って本文から答えを抜き出せるような設問にしたため、正答率は非常に高かった。また、英問をワークシートに印刷しておき、答えを書きながら確認する時間を最後にとったため、英問英答の際は、生徒は答えを探すことに集中できていた。このことで、生徒は、「日本語訳をしなくても自分で英文から答えを見つけ出した」、「英語を英語のまま理解できた」という達成感をもつことができた。

活動Cに関しては、key wordを用いて要約文を書く活動は、活動の前にリスニングや音読など十分なインプットを与えたことで、習熟度の高い生徒は一定量の英文を書くことができた。一方、中にはほとんど書けない生徒も見られたことから、改善を要する活動であったと思われる。「地球温暖化」は、現代社会の授業で学んでいたこともあり、生徒には予備知識があった。多くの生徒が非常に前向きに取り組んでいた姿が印象的だった。ただ、意見文

を書くことはできても、それを相手に伝えることはまだ難しいようであった。到達目標ごとの考察は次の通りである。

活動Aの到達目標の達成状況

- ・ペアワークで、新出単語や熟語を、その意味から英語で答えることができた。
- ・ワークシートを工夫したり、視覚教材を用いたりすることで、oral introduction を聞いて、本文の概要をおおよそ推測することができた。

活動Bの到達目標の達成状況

- ・設問を工夫することで、英問英答によって内容を理解することができた。

活動Cの到達目標の達成状況

- ・key wordをつなげて要約文を書くことは、多くの生徒にとって難しい活動であった。
- ・地球温暖化を防ぐために、自分ができることを何とか英語で書くことはできたが、相手に理解してもらえるように発表することはできなかった。

(2) 段階Ⅱ（9、10月）

(ア) 段階Ⅰの考察に基づく工夫改善

これまでの取組を通して、教師の英語の発話量を増やすことで、生徒の「聞く」量は増えたが、生徒の英語の発話量は依然少なかった。段階Ⅱでは、イラストなど視覚教材を活用しながら、英語によるインプットをさらに増やすと同時に、様々な形で生徒のアウトプットの機会を増やす必要があった。

導入に関しては、英語と日本語の変換でなく、新出単語を英語のまま理解する活動に発展させることにした。内容理解に関しては、段階Ⅰでは、英語での oral introduction に慣れさせるため、情報を与えすぎてしまっていた。本文の内容に関してどこまで情報を与えるかを工夫改善する必要があった。また、内容の定着のために、自分たちで英語での T/F Question を作成させ、ペアワークで確認させる活動を実施することにした。表現活動に関しては、生徒の能力や意欲に差がみられるため、生徒の知的好奇心をかき立てるような資料の提供や、筆者の意図や気持ちを考えて、様々な異なる意見が出てくるような問題の提起の仕方について検討した。

段階Ⅱの到達目標

- | | |
|---------|--|
| 活動Aに関して | ・新出単語の意味を、英語で理解することができる。
・イラストを用いての oral introduction を聞いて、本文の概要を推測することができる。 |
| 活動Bに関して | ・英語での T/F Question を作成し、内容を理解することができる。
・各パートから文章を抜き出すことで、筆者の感情の変化を読み取ることができる。 |
| 活動Cに関して | ・本文に基づき、自分の経験を英語で書き、発表することができる。 |

使用教科書 POWWOW ENGLISH COURSE I Lesson4 A LUCKY MAN (文英堂)

(イ) 活動Aに関する事例④ 新出単語と英文のマッチング

ワークシート（資料9）を用いて、新出語句とその語句を説明している英文をマッチングさせた。ペアワークで話し合ってもよいが、辞書は使用せず、あくまでも意味を推測しながら組み合わせるように指示をした。最初は、単語の数と英文の数を同じにしたが、生徒が慣

れてきてからは、英文の数を何文か多くしたり、単語の数を何語か多くしたりした。答えを確認する際は、教師が英文を読み上げ、生徒が口頭で英単語を答えるという形式にした。

(ウ)活動Aに関する事例⑤ oral introduction その3

生徒は oral introduction に慣れてきた。視覚教材を活用することの有用性は段階 I でも明らかであったため、今回はイラストを用いることにした。ワークシート(資料 10)を配付し、教師の oral introduction を聞きながら、絵を並べ替えるという作業をさせた。ただ聞くのではなく、補足の質問を多く投げかけ、英語でのやりとりが多くなるような工夫をした。

(エ)活動Bに関する事例② T/F Question の作成

段階 I では、教師が T/F Question を作成し、生徒が答えるという形式であった。段階 II では、内容を確認するために、生徒自身に T/F Question を作成させた。ワークシート(資料 11)を配付し、まずは内容を理解させるために、教師が作成した英語での Q&A に答えさせた。次に、ワークシートの右側に T/F Question を作成させた。その後、ペアになり、自分の作成した T/F Question をお互いに出題させた。

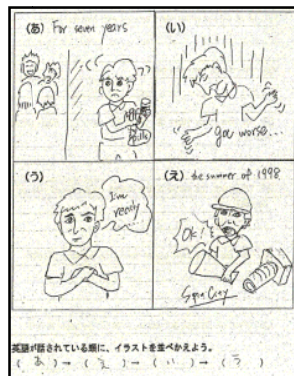
<資料 9>

<資料 10>

<資料 11>

Part3
Comprehension
<Word matching>

pill 錠剤	a feeling of being more calm, hopeful
treatment 治療	out of a building or room
comfort 安らぎ	to put or keep something in a place where it cannot be easily seen or found
hide 隠す	a method that is intended to cure an injury or illness
outside 外側	a small solid piece of medicine



イラストが隠されている際に、イラストを並べかえよう。
(あ)→(ま)→(い)→(う)

Lesson: A LUCKY MAN
Class [] No [] Name [] < T&F >

< Q&A >

Q1: What did the writer carry around with him for years?
He carried P.D. meds around with him.

Q2: Why did he carry the pills?
He carried them to his decrease.

Q3: For how many years did the writer carry P.D. meds around with him?
He did for seven years.

Q4: What was the name of the drama he produced with other people?
It was "Spun City".

Q5: Why did he become busier during the summer of 1998?
Because he was one of the winners at "Spun City".

Q6: When his disease got worse, what did he begin to find?
He began to find that he was making his "fortune" on the "lucky man" lottery.

自分で T/F を作り、となりの人に読んでもらおう。
1. During the summer, 1998, my new job suddenly made me a whole lot busier. T & F
2. It wasn't time for me to bill anyone. T & F
3. My years of carrying P.D. meds around with me. T & F

読んだ人 []
得点 3 / 3

(オ)活動Bに関する事例③ 心情把握のための文章の抜き出し

授業ではパートごとに「内容理解」をしている。レッスン全体を通しての筆者の心情の変化を確認させるため、各パートの中から、筆者の気持ちを最も表していると思う文を抜き出させ、それをつなぎ合わせることで、筆者の気持ちの変化を理解させた。はじめに各自で文章を抜き出させ、ワークシート(資料 12)に記入させた。その後、ペアにし、自分が抜き出した文章を、and, but, so などを用いてつなぎ合わせて口頭で相手に伝えさせた。選んだ文章が相手と違うならば、なぜそう考えたのか理由を話し合うように指示した。

<資料 12>

<One more try>
Part1 から Part4 の各パートから、筆者の気持ちを最も表していると思う部分を抜き出し、つなげてみよう。

Part1
For me, a 25-year-old lottery winner, money was no longer an object.

Part2
I don't think I felt anything.

Part3
I was time for me to tell everyone. I was ready.

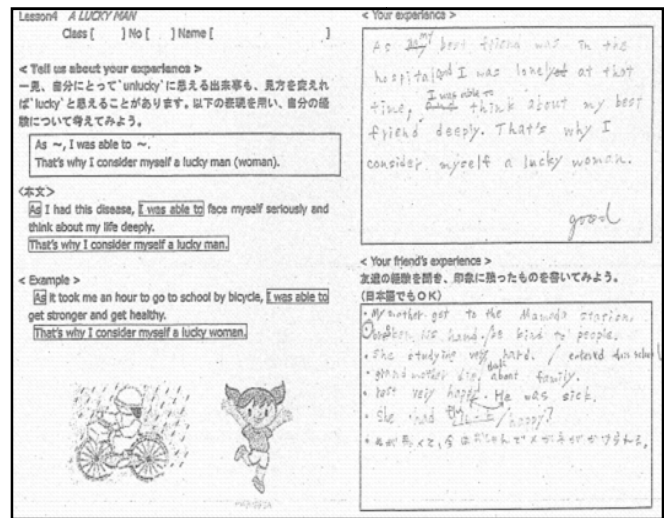
Part4
I was able to face myself seriously and think about my life deeply. That's why I consider myself a lucky man.

(カ)活動Cに関する事例④ 意見文

このレッスンは、物事は考え方や捉え方次第で、自分にとってラッキーにもアンラッキーにもなる、という内容であった。段階 I では、地球温暖化についての意見文を書かせたが、段階 II では、自分の体験を英文で書かせ、段階 I で課題であった「書いたことを相手に伝え

る」ことに留意した活動を行った。自分にとって「unlucky」と思える出来事でも、見方を
 変えれば「lucky」と思える自分の経験を英語で書かせた。ワークシート（資料13）に、本
 文中の表現を用いて書くように指示した。本文の中でMichael. J. Foxが、自らがパーキン
 ソン病にかかったことを、“As I had <資料13>

this disease, I was able to face
 myself seriously and think about my
 life deeply. That's why I consider
 myself a lucky man.”と表現する箇所
 がある。この“As ~, I was able to ~.
 That's why I consider myself a lucky
 man.”という表現を用いて書かせた。
 書いた文章はグループで発表させ、印
 象に残った文を書きとめさせ、書きと
 めた文章について意見交換させた。



(キ) 段階Ⅱの研究内容の考察

活動Aに関しては、二種類の活動を実施した。新出単語を日本語を介さずに英語で理解さ
 せる活動では、最初は、新出単語についての英語の説明を全て理解しようとして戸惑ってい
 る生徒も多かったが、徐々に、説明文の中の既習の単語から正解を導ける生徒が増え、正答
 率が上がってきた。内容に沿ってイラストを並べ替える活動は、生徒にとっては抵抗感がな
 く、概要の理解に効果的であった。その後の内容理解のための英問英答にもスムーズにつな
 げることができた。

活動Bに関しては、T/F Questionを生徒自身で作成させた。最初は、簡単な質問を作る
 生徒が多かったが、慣れてくると、わざと相手をひっかけるといった質問を作成するなどの工
 夫を凝らすようになった。またT/F Questionを作成するためには、本文を何度も読み直
 す必要があり、内容理解を深めることができた。また、本文から作者の気持ちを表す部分を
 抜き出させる活動は、抜き出すまでに時間はかかったものの、生徒は内容についてもう一度
 よく考え、作者の気持ちの変化を丁寧に考え直す機会になった。

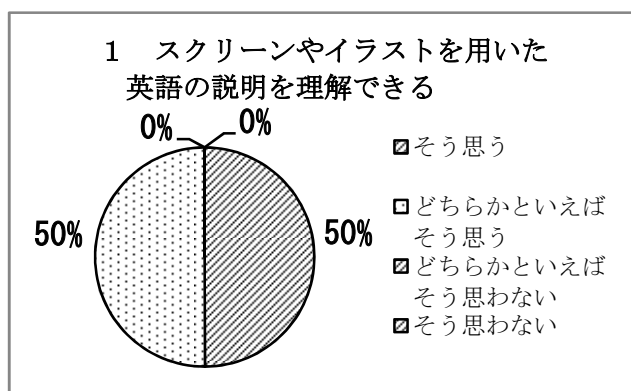
活動Cに関しては、本文の表現を用いながら自分の経験を英文で表現させた。生徒が自信
 をもって発表できるように事前に教師が英文をチェックしたが、発表というよりは「読む」
 という生徒が多かった。しかし、友人の様々な経験や考え方を熱心に聞き、新たな「気付き」
 があったようだった。到達目標ごとの考察は次の通りである。

<p>活動Aの到達目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語を説明した英文を読み、英語で理解することができた。 ・oral introductionを聞いて、イラストを並べ替えながら本文の概要を推測することができた。 <p>活動Bの到達目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語でのT/F Questionを作成し、内容を理解することができた。 ・各パートから筆者の心情を表す文章を抜き出し、感情の変化を読み取ることができた。 <p>活動Cの到達目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の表現を用いて、自分の経験を英語で書き、発表できた。発表方法に改善が必要である。
--

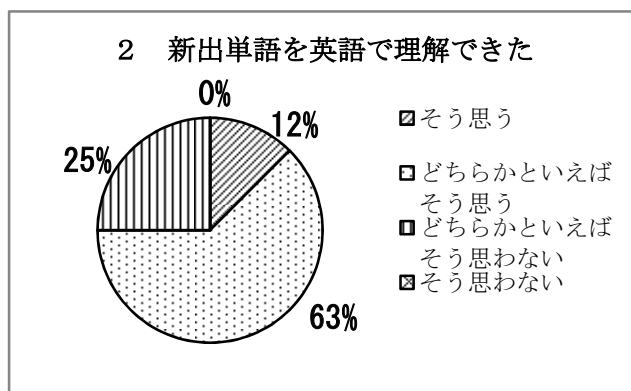
(3) 段階Ⅲ (11月)

(ア) 段階Ⅱの考察に基づく工夫改善

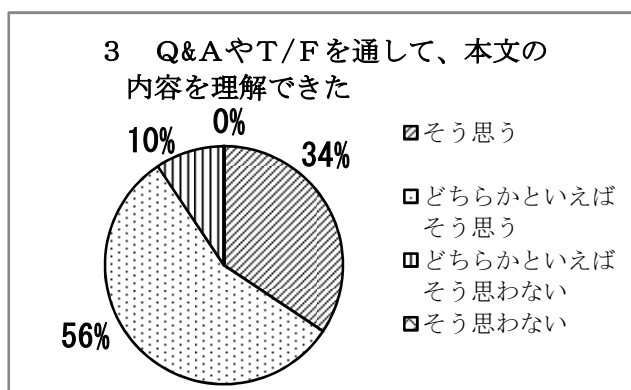
段階Ⅰ、段階Ⅱを終了したところで、生徒に授業アンケートを実施した。実施日は10月26日、5月に事前アンケートを実施したクラスと同じクラスの32名を対象にした。



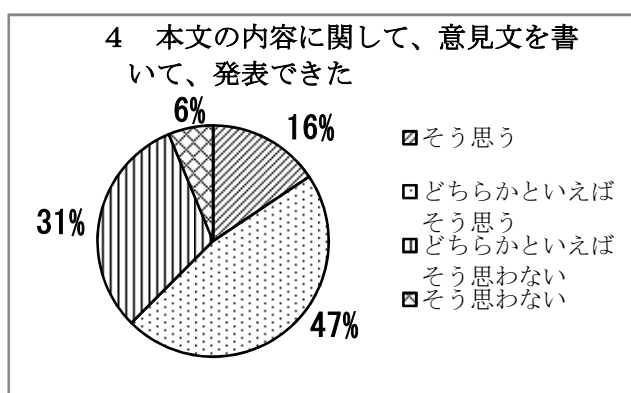
- 楽しくできた
- 想像力が高まった
- 分かりやすかった
- 単語の意味や英文が分からないところがあっても、イラストを見ることでその場面の状況が理解できた
- 画像があると記憶に残る



- 新出単語を別の表現でさらに深く学ぶことができた
- 少し難しかったけど、印象に残った
- 少しずつ理解できるようになった
- 難しいけれど、言い換えたことでその単語が覚えやすかった
- 少し難しかった
- 混乱した



- 英文のポイントになる所がよく分かった
- Q&AやT/Fを初めにやった方が分かりやすい
- 話の流れをつかむことができた
- 後から先生の説明もあるので分かりやすい
- 結構難しかった
- 詳しく読まないといけない



- ペアやグループで話し合うのは楽しい
- あまり意見を言うのは好きではないが、発表する時に考えさせられた
- 授業以外で、活動について友達と話し合ったりすることができた
- 男女が混じっている班だと話しにくい
- はっきり自分の意見を言えなかった
- 自分の表現力のなさを実感した

アンケート結果によると、自分の意見を発表し合う活動は、表現力や語彙力の不足のために抵抗を感じている生徒がいることが分かった。しかし、視覚教材を活用しての導入や、新出単語の英語での理解、Q&AやT/Fによる概要理解に関しては、生徒が概ね意欲的に取り組んでいることが分かった。これらの結果と、前述の「(キ)段階Ⅱの研究内容の考察」の

内容を踏まえて、さらに発展させた活動を実施することにした。特に留意する点は、生徒の英語の発話量を増加させることと、「相手が理解できるように伝える」ことを生徒に心がけさせることである。

段階Ⅲの到達目標

- 活動Aに関して ・新出単語を簡単な英語で説明することができる。
- 活動Bに関して ・英語でQ&Aを作成し、内容を理解することができる。
- ・イラストを用いて story reproduction をすることができる。
- ・パートごとに最も大切と思う文を抜き出し、その理由を発表し合うことができる。
- 活動Cに関して ・本文の続きを英語で考え、story telling をすることができる。

使用教科書 POWWOW ENGLISH COURSEⅠ Lesson5 RETURN TO THE WILD, MY AQUA (文英堂)

(イ)活動Aに関する事例⑥ 新出単語の英語での説明

段階Ⅱでは、新出単語とその意味を表す英文をマッチングさせることで、単語を英語で理解させる活動を行った。生徒の中に「自分でもできそう」という様子が見られるようになったため、新出単語の意味を、簡単な英語で言い換えさせる活動に発展させた。ワークシート(資料14)を用いて、これまでにやってきた単語と英文のマッチングをさせた。その後、英語で説明文を書かせ、ワークシートを交換させ、お互いに単語を当てさせる活動を行った。語句の説明は、伝わりやすい表現を用いることを心がけさせ、説明できないときは、その語句の使用例を挙げるなどの工夫をするよう指示した。活動の最後には、英問英答の単語テスト(資料15)を行い、語彙の定着を図った。

<資料14>

Handwritten student work for 'Word matching' and 'Explain the meaning of the words'. The work shows matching words like 'shore', 'curiosity', 'snuffle' to their definitions and explaining them in simple English. For example, 'shore' is explained as 'the land along the edge of an ocean or lake'. 'curiosity' is explained as 'the desire to know about something'. 'snuffle' is explained as 'to breathe noisily through your nose making low sounds'. Other words explained include 'encounter', 'calm', 'bright', and 'shallow'.

<資料15>

Handwritten student work for 'Word Matching' and 'Explain in English'. The work shows matching words like 'worried about something', 'a common plant that grows in the sea', 'to make jokes and laugh at someone in order to have fun' to their definitions. The words 'concerned', 'seaweed', and 'tease' are correctly matched. In the 'Explain in English' section, the student explains 'husband' as 'He has a wife.' and 'salty' as 'It's opposite to 'sweet''.

(ウ)活動Bに関する事例④ 英語でQ&Aの作成

中間アンケートから、英語で内容に関するT/F Questionを作成することに生徒は前向きに取り組んでいることが分かった。また、作成する質問も工夫が凝らされるようになってきた。そこで、少しレベルを上げ、ワークシート(資料16)を用いて、内容に関して英語でQ&Aを作成させることにした。これまで、教師の英語の質問に対して、生徒が英語で答えるという活動を継続

<資料16>

Handwritten student work for 'Q&A to TRY!'. The student has created two questions and answers. Question 1: 'Where was she playing the violin?' Answer: 'She was playing her violin on the shore of Islay Island.' Question 2: 'What appeared near her then?' Answer: 'A seal appeared.' (did)

して実施してきた。それを自分たちで考えさせるという活動である。本文から答えがすぐに抜き出せる質問や、深く考えないと答えが出ない質問など、出題にはバリエーションをもたせるよう指導した。作成した質問は、ペアで口頭で英問英答させてから、答えをお互いに書かせ、それを出题者が添削するという形式にした。さらに、いくつかの質問を教師が選び、次時の復習の時間にクラス全体で英問英答をした。

(エ) 活動Bに関する事例⑤ key sentenceの抜き出しと理由付け

段階Ⅱでは、筆者の心情の変化を理解するために、カギとなる文章を抜き出すという活動を実施した。抜き出した文章をペアで確認させたところ、異なる文章を抜き出した際、「何でこの文にしたの？」などと質問し合っている様子がみられた。そこで、内容理解と表現活動を組合せた活動を実施した。まずは、ワークシート（資料17）を配付し、自分が本文中で最も大切と思う箇所をパートごとに抜き出させ、そこを選んだ理由を英語で書かせた。英語で表現できないときには日本語を使用してもよいとしたため、ほとんどの生徒が日本語で書いていた。その後4人のグループにさせ、お互いに発表させた。

<資料17>

Lesson5 RETURN TO THE WILD, MY AQUA	
Class [] No [] Name []	
Part1 <Think about more deeply> Part1からPart1の各パートから、最も大切と思う部分抜き出し、その理由も書かす。 Part1 This was just my first encounter with seals. I have been watching them since then. <理由> アキラとアキアとの最初の出会いは感動的であり、 これをきっかけとしてアキアがアキラのことを覚えていた。	Part3 She might leave us once she felt the water of her natural home around her. <理由> アキラがアキアの自然の環境に慣れ、アキアがアキラを離れていく。
Part2 Aqua wasn't able to make any sound for the first week, but her voice gradually came back. <理由> アキラの体調が悪かったところから回復して、 成長していくアキアが書かしているから。	Part2 My Aqua had returned to the wild. <理由> アキラがアキアの自然の環境に慣れ、アキアがアキラを離れていく。

(オ) 活動Bに関する事例⑥ 内容定着のための story reproduction

段階Ⅱより、継続してイラストを用いたoral introductionを実施してきた。慣れてきたせいか、生徒たちから「自分もやってみたい」という声がかきこえるようになってきた。導入として活動させるのは難易度が高いので、学習内容を確認させる活動として、ペアでイラストを用いてstory reproductionをさせた。本文の流れに沿って4枚の絵をワークシート（資料18）に描かせ、それを説明するための英文を考えさせた。教科書の文をそのまま書く生徒もいたが、これまで教師がやってきたように、少し易しい英語で言い換えている生徒もいた。相談しながらできるよう、ペアワークにした。その後、別のペアとお互いにstory reproductionをさせた。

<資料18>

本文の流れに沿って、イラストを描いてみよう。

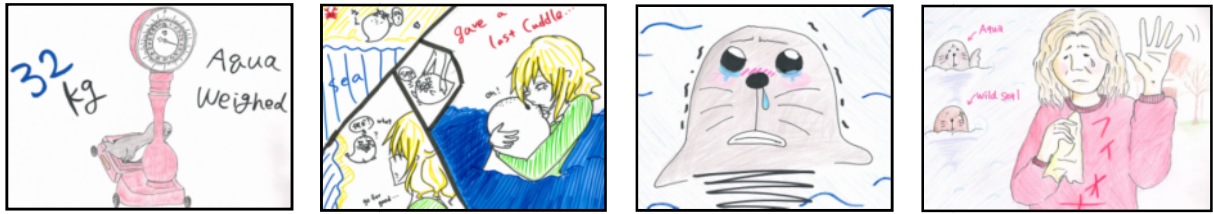
(あ) 23 ~ somewhere near me 	(い) 24 ~ into the sea
(う) 27 The seal ~ curiosity 	(え) 28 He ~ to...

(カ) 活動Cに関する事例⑤ story telling

このレッスンはアザラシの保護活動をしているスコットランドの女性の話で、レッスンの最後には保護したアザラシが野生に戻っていくという内容である。そこで、このときアザラシはどのように思ったか、この女性はどのように思ったか、アザラシはこの後どうなったのかなど、この話の続きを英語で考えさせる活動を、グループワークとして実施した。自分たちで考えた続きの話をワークシート（資料19）に記入させた。Then Aqua said to me, “-----”とアザラシ(Aqua)の気持ちを表すセリフを加えることを条件とした。(エ) 活動Bに関する事

例⑤と同様に、パート4をイラスト（資料20）を用いて story reproduction させ、それに続けて作成した物語をクラスで発表させた。

<資料20>



<資料19> 生徒が考えた続きの話と絵

Let's try "Story Telling"! Part 4 の続きを書いてみよう!

Then Aqua turned around and said to me." I will never forget you. You are my mother!" I felt very very lonely. but I understood this is the best choice for Aqua and me.

A year later, one day, I played my violin on the shore. Then I saw two seals and a baby seal. Immediately I understood it is "my Aqua". She came to see me with her family.



(キ) 段階Ⅲの研究内容の考察

段階Ⅲでは、英語で相手に伝えること、相手の話す英語を理解すること、つまり生徒同士での英語のやりとりの場面を増加させることに留意して活動を行った。

活動Aに関する新出単語の意味を簡単な英語で言い換える活動では、単語を相手に当てさせるというクイズ形式にしたことで、生徒は活動に意欲的に取り組んでいた。この活動をきっかけに英英辞典に興味をもつ生徒も出てきた。また、英問英答による新出単語テストも、語彙の定着に効果がみられた。

活動Bに関しては、段階Ⅱから始めた Yes/No で答える質問から、徐々にレベルを上げ、疑問詞を用いて疑問文を作成させた。これまで教師が継続して行ってきた活動であったため、あまり抵抗なく取り組んでいた。自分で疑問文を作らせることで、語順について改めて意識させることができた。また、story reproduction でも、教師が継続して oral introduction の形でモデルを示していたため、真似をしながら積極的に取り組んでいた。最も大切だと思う箇所を抜き出すと同時にその部分を抜き出した理由を書くことで、アザラシを保護して強い絆を築きながらも、最後にアザラシを野生へ戻す筆者の気持ちの変化を把握することができた。しかし、ほとんどの生徒が理由を日本語で書いていたことから、段階的指導が不足していたと考えられる。

活動Cの、別れの時の気持ちや話の続きを考えさせる活動では、何度も教科書を読み直したり、グループで話し合ったりしていた。内容理解を深めさせながら、英語での表現力を付けさせることができた。発表も「相手に伝わるように」ということを意識してできるようになった。到達目標ごとの考察は以下の通りである。

活動Aの到達目標の達成状況

- ・新出単語を英語で説明することができた。

活動Bの到達目標の達成状況

- ・英語でQ&Aを作成し、内容を理解することができた。
- ・イラストを用いながら、story reproduction をすることができた。
- ・パートごとに最も大切と思う文を抜き出すことができたが、その理由を相手に伝えることに関しては、ほとんどの生徒は日本語になってしまった。

活動Cの到達目標の達成状況

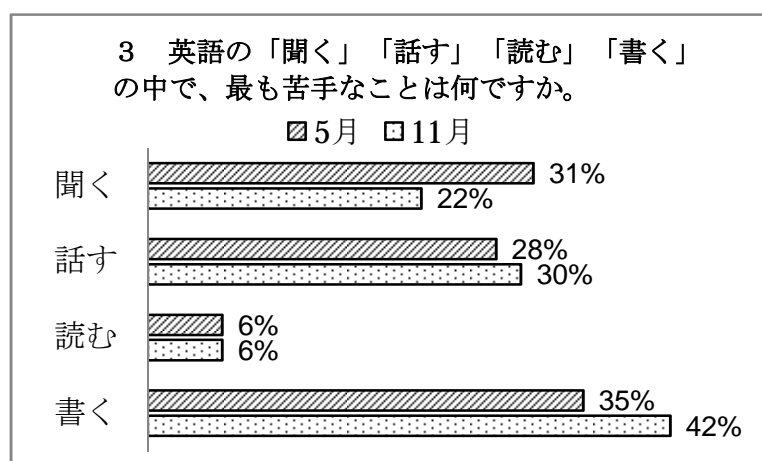
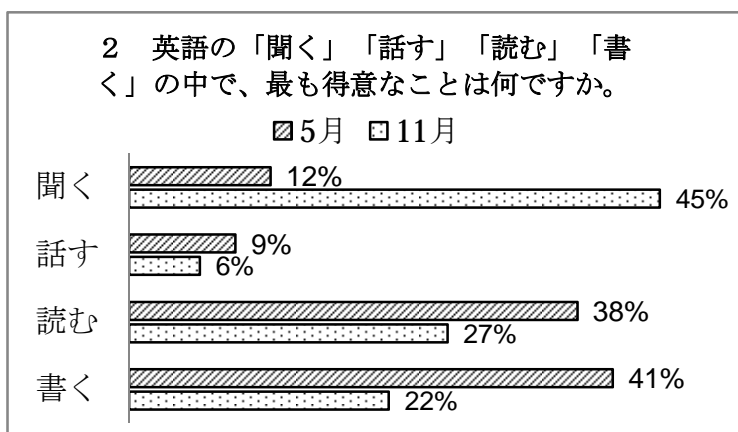
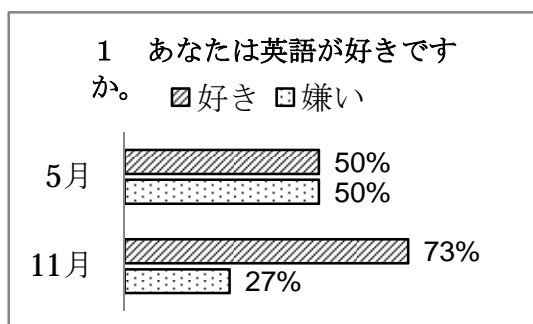
- ・本文の続きを英語で考え、story telling をすることができた。

5 検証とまとめ

(1) 事後アンケートによる検証

これまでの活動を振り返るために、同じ生徒 32 名を対象に、事前アンケートと同じ内容のアンケートを実施した。

<実施したアンケート>



4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。

- ・話されていることを頭の中で速く整理して理解できるようになりたい。
- ・どんな内容が話されているのか概要を聞きとれるようになりたい。
- ・前置詞などが他の単語とくっついて読まれるのを聞きとれるようになりたい。

5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。

- ・話すことで、たくさんの人とコミュニケーションがとれるようになりたい。
- ・自分の思いや意見を相手に伝えることができるようになりたい。

6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。

- ・全ての英文が理解できなくても、理解できる部分をつなぎ合わせて内容を理解できるようになりたい。
- ・読むスピードを速くしたい。
- ・英語の新聞や本を読めるようになりたい。

7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。

- ・きちんとした構成の英文を書けるようになりたい。
- ・自分の思いが相手に通じるような英文が書けるようになりたい。

「聞くこと」を得意とする生徒が増えた。「聞く」活動を増やしたことが背景にあると考えられる。また、段階的に、「相手が伝えたいことを理解する」ことを目的とした活動を行ったことで、生徒の中にも相手のことを理解したいという気持ちが強くなったためと考えられる。反面、「話すこと」や「書くこと」などのアウトプットを苦手とする生徒が増えてしまった。アウトプットの場面を増やしたことで、その難しさを実感したり、自分の英語力不足を感じたりしたためだと考えられる。しかし、問5や問7の回答からも、どうしたら思いを伝えられるようになるのか、具体的な方法を生徒が意識するようになったことが分かる。自由記述の回答は全体的に事前アンケートと比較してより具体的になり、できるようになるためには何をすればよいのか、ということを生徒が意識するようになったことが分かる。

(2)まとめ

「生徒が英語に触れる機会をいかに増やすか」「英語を英語のまま理解したり、英語で自己表現したりするコミュニケーションの場面をいかに作るか」に焦点をあて、様々な実践を行ってきた。研究当初に設定した仮説1から3については、概ね検証できたと考えている。

今回の研究で最も留意した点は、段階的指導である。研究内容は、授業の導入に関する活動、内容理解に関する活動、教科書をもとにした表現活動の三つに分類した。「授業をコミュニケーションの場面である」と捉えるためには、英語でのやりとりが必要不可欠である。つまり、自分の思いや意見を英語で相手に伝えたり、相手が英語で伝えようとしていることを理解したりする、ことが求められるが、これらは生徒にとって難易度は高い。今回は、まずは、「読んだ内容に対して自分の意見をもつ」ことからの指導であった。また、英語でアウトプットさせるためには、多量のインプット、インテイクが必要とされるため、様々な場面を設定し、アウトプットに無理なくつながるような活動を実施した。例えば、教師と生徒とのやりとりを十分に行ってから、生徒同士でのやりとりに段階的に移行させるなどした。

この実践を通して気付いたことは、①生徒は教師の英語での説明に思ったほど抵抗感がないこと、②映像やイラストなどの視覚的教材が生徒の内容理解に大変効果的であること、③ペアワークやグループワークを取り入れることで、生徒に自主性や学び合いが生まれること、④発表させることで、他の生徒の意見や体験に興味をもって耳を傾けることができ、生徒間で新たな発見や気付きが生まれること、である。

段階的な指導を心がけながら、様々な活動を継続して実施することで、生徒に有能感を味わわせるようにしたり、関心・意欲を刺激したりするような指導を行ってきた。実践を通して、改めて生徒たちの中にある大きな可能性と秘めた能力に気付いた。生徒たちの英語運用能力を高めるために、教師としてこれからも努力し続けたいと考えている。